

## 2017年度も 国際交流にあふれた キャンパスに

国際交流センター長 村田信行

国際交流センターでは今年度も、充実した各プログラムを維持し、派遣・受入ともに力を入れていきます。

派遣事業では、1学期を海外の学校で過ごすセメスター留学と、夏休み（オーストラリア、台湾、韓国、モンゴル）、春休み（ハワイ、カンボジア）の海外研修6本が中心です。本学のプログラムは、異文化間能力（態度・知識・スキル）を養成することを目的とし、現地の人と積極的に関わる態度を養成し、各プログラムで設定された問いの答えを探しながら現地を過ごすようにしつつ設計されています。また、事前研修により訪問先の知識や海外渡航の心構えを得て参加し、事後研修のレポートや発表により自分の学びを深めます。これらの仕組みにより、海外研修プログラムは、単なる海外渡航経験ではなく、「問を持った旅、学びを創る旅」となっています。受け入れ事業としては、姉妹大学である韓国のハニャン（漢

陽）女子大学から、春学期2名、秋学期3名のセメスター留学生を受け入れます。また、短期の訪問団をハニャン、学術協定校の国立高雄第一科技大学（台湾）、長野県の姉妹県であるアメリカミズーリ州のミズーリ大学コロンビア校から受け入れます。またインターナショナルカフェでも数回外国のお客様をお迎えする機会があります。

これら各国のプログラムはいずれも、清泉生が直接外国の方々とともに行動し、様々な経験を共有できる内容で、学生たちの視野を広げる機会をふんだんに提供しています。

### 受入

**米国・韓国から約40名来校**  
毎年、上半期には海外から多



ミズーリ大学生来学



ハニャン女子大学  
セメスター留学生着物体験

くのお客様をお迎えしています。今年度は4月に姉妹校のハニャン女子大から2名のセメスター留学生、5月にはアメリカのミズーリ大学から学生7名と教員6月にはテキサス州の教会の方5名とハニャン女子大の短期研修生24名と教員が本学を訪れました。

今年で2年目となるミズーリ大学の訪問の際は、大学・短大の学生ボランティアがミズーリ大学の学生をサポートしました。日本の文化体験はもちろんのこと、学生同士の交流も活発に行



ハニャン女子大学（短期プログラム）来学

われ、現在在学でいる英語を使う貴重な交流体験となりました。また20年以上の友好関係があるハニャン女子大の短期訪問プ

プログラムが今年度も無事行われ、大勢の学生が善光寺の案内をしたり、夕食ガイドやホームステイ受け入れに積極的に協力してくれました。この他、お互いの文化を紹介する「日韓文化フォーラム」も行われ、ハニャンの学生からは「どれもすばらしい体験だった」という感想が聞かれました。最終日にはお互いに別れを惜しむ姿が印象的でした。

### 派遣

#### 支援のかたち

幼児教育科 2年 山田紗由

私はこの研修に参加して「貧困」に対する考え方が変わりました。カンボジアに行く前の私はカンボジアに対して、貧しく、物資も不十分で、学校に行けない子どもが多い、というようなイメージを持っていました。またマスメディアの影響で、「地雷がたくさんあり危険」という先入観もありました。しかし、実際に自分の目で見たカンボジアは違っていました。子どもたちはごく普通に遊んでおり、人々はとてもここにこして生活しています。みんながみんな涙を流しているかというと、そういうわけではありません。金銭的には貧しくても、現地の人にとって昔からの当たり前の生活があり、それを文化や習慣として当たり前が続けてきているのです。金銭的に余裕があることだけが幸せの形ではないということに改め

て気づかされました。

様々な問題を抱えているカンボジアは外部から多くの支援を受けています。今回の研修



で訪れた「かものはしプロジェクト」は貧困家庭の女性に仕事を提供し、自立を手助けすることを目的としています。私はここを訪れるまで支援について深く考えたことはありませんでした。しかし、現地を見学し、スタッフの話を知ったことは、「支援のかたち」について考えるきっかけになりました。この経験を通じて、お金ではなく、現地の人々に寄り添い、人々と一緒になって成長していくような支援のかけがえのない経験を感じました。そのために女性たちのことを思い、共に成長していこうと奮闘する「かものはしプロジェクト」のみなさんの活動はとても素敵にみえ、私もそのように困っている人の力になりたいと思いました。

今の私にできることは本当に小さいけれど、自分にできることを精一杯やりたいと思います。（2017.2.22〜28 カンボジア文化研修参加）